

## [COMMUNION]

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.html>E-mail: [comm.tko@nskkn.org](mailto:comm.tko@nskkn.org)

PHONE: 03-3433-0987

PHONE: 03-3433-0987

FAX: 03-3433-8678

Diocese Office



《大齋節メッセージ》

## 自己を見つめ直す時が来ている

司祭 ケビン・シーバー



「言っておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」(ルカ13・3)

大齋節の(主日を除いての)40日間は、個々人のクリスチャンにとって自己を見つめ直す機会です。罪に苦しんでいるわたしたち人間のためにイエス・キリストが十字架の上でどんなに大きな代価を払ってくださったかを思い出し、色々な角度から自らを吟味します。この一年間で自分の生活において、神の慈愛にどのくらい応えてきたか。きちんと応えていくには、自分がどう変わらなければならぬのか。神の愛を周りの人と分かち合うために自分の生き方をどう改めるべきか。

ある意味で東京教区も40日間よりも遙かに長い大齋節を過ごしていると思います。聖職者不足問題、高齢化し縮小していく会衆の現状などという不安と苦悩は、各教会を徹底的な自己吟味へと呼びかけている気がしてなりません。最近、ある英国聖公会の牧師求人広告を見つけました。東京教区といくつか共通点があるので紹介したいと思います。「この教会地区には8つの小さな教会があります。約一年間無牧状態となり、新しい牧師を探しています。各教会は小さくて高齢化が進み、必要な金を集めるのに常に苦労しています。わたしたちは将来について熟考して、次の結論を出します。

- ・子供や若者に教会に来てほしいのであれば、歓迎できるようにわたしたち自身が変わらなければならない
- ・牧師は一人の人に過ぎず、同時に複数の場所にはいられません
- ・教会はわたしたち全員です、教会を活発にするのは各自の責任です
- したがってわたしたちは次のことを約束します。
  - ・牧師のために祈り、その牧師が働くばかりでなくて生き残るための時間と場所を確保します
  - ・各自が持つ賜物やアイデアを、求められるのを待たずに生かします
  - ・神の民として福音のために一生懸命に働きます
  - ・新しいことを前もって否定するのではなくてまず試して、できるかどうか判断します
  - ・わたしたちを通して神がなさろうとしている新しいことのために古いものややり方を手放します
- これらを踏まえて、わたしたちが求める牧師は次のような人物になります。
  - ・以上のことを定期的にかつ優しく思い起こしてくれる人
  - ・わたしたちに向かつて、そしてわたしたちと一緒に福音を宣べ伝える人
  - ・祈ってくれる、そして共に祈る人
  - ・礼拝を執り行ってくれる人
  - ・イエスの弟子として、そして教会全体として成長できる方法を示してくれる人
  - ・わたしたちを導いて必ずやって来る変化を乗り切らせてくれる人
- ご関心のある方は以下のところにご連絡ください：「いかがでしょうか。東京教区の聖職者、信徒ともども見つめ直すべきことはたくさんあると僕は痛感しています、と同時に、神に応援してもらえることも確信し、喜びをもって前向きに考えたいところですよ。」
- 「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おのいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる」(ヨシヤ記1・9)

(聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂牧師)

東京教区時報アーカイブ(2)  
監督(主教)元田 作之進  
第二回東京教区会演説(1924年)

今回、アーカイブ・シリーズの第二弾として、今から90年前、初の東京教区主教(当時は監督)となった元田作之進師(主教在位1923(1928年)が行った第二回東京教区会演説を掲載することにした。前年に関東大震災があり、その傷痕がなまなましく残る中で開催であり、その内容は歴史的な価値があるだけでなく、日本が数々の大震災を経験した今、読んでいただきたい重要な文章であると思ひ取り上げることにした。尚、当時の文章をできるだけ現代文に改めて、一部割愛した形でお届けする。

神のみ名により、ここに第二回東京教区会を開催して聖職ならびに代議員諸君と一堂の中に会し、み国の事業につき協議をする機会を得たことは私の最も喜びとするところである。

定期教区会として、これをもって第二回とするも教区成立以来臨時教区会を開くこと二回にして、実際はこれをもって第四回の会台である。

私が監督の使命を受け議長として

を組成する最も重要なものはすなわち信者にして、教会堂は亡び、家財は焼かれても信者の信仰が不動であれば、教区の生命は持続する。これこそ我等が震災当時より、祈りもし励みもしたる所にして、今日教区が着々と以前の健康体に復帰しつつあるのは、この為である。震災前の状態までには回復していかないが、漸次健全に復興しつつあることを思うとき、信者各自の信仰の持続が、その最大の原因であることを忘れてはならないのである。

教区信者の数が過去一年間においていかに増加したかは今日知ることには出来ない、本年末の統計の後でなければ確実な報告をすることは出来ない。しかし過去一年に信徒按手を受けた者は一四一名であった。大正一二年度の数よりも遙かに多く、東京教区は震災直後の一力年において著しく受聖餐者の数を増加したのである。

さらに過去一年間における教区生活の進歩を見ると、感謝すべき点の一つや二つではない。たとえば教役者修養会や信徒修養会のように、神の恩寵を受けて東京教会の信仰生活に刺激と奨励を与え、東京教区史に特筆すべき出来事を飾ったのである。

出席したのは大正十二年十二月十七日の第二次臨時教区会をもって始めとする。この教区会において私は日本聖公会がいかに発展してきたか、外国ミッシヨンがいかにこの発展を助けてきたか、しかし同年九月一日の大震災火災がいかに残酷に我が教区を破壊させたかについて概略の説明をし、諸君と共に教区の復興に関して慎重に協議をしたのである。

第二次臨時教区会において述べたように当時に遡ってその状況を見れば九月一日の大震災火災により二十の教会堂のうち九教会を灰燼に帰し、三個の借家教会のうち一つを焼失し、僅かに残った十三の教会堂も、その多数は比較的貧弱なものであった。

更に教区の財力も著しく減少し、震災前毎月の俸給ならびに家賃として支出する総月額額は約千五百円であったが、震災後には僅かに六百十三円となり支出力においても五分の二に低下したのである。もし物質的能力のみについていえば当時東京教区は一つの教区として存在する資格を喪失していたのである。七人の長老(司祭)と二人の執事と三人の婦人伝道師その住居と家財衣服を失い、四千の会員中、被災者、焼死者、負傷者、行方不明者は一千人以上にして、信者の二割四分は全くそ

の財力を喪失した。このような状態の中、もし教区の会員が意気消沈し復興の勇気がなければ、東京教区は朝に生え出でて栄え、夕に刈られたる青草の如く、東京教区の名は一夜の夢のようなものに過ぎなかつたのである。

しかし教役者・信徒のまことの情熱と内外同胞の同情と、特に神のご加護により教区はその息を回復し、着々と復興の気運を造っていったのである。第一に焼け跡にバラック建ての教会を得たのは深川の聖救主教会、次に神田キリスト教会と聖パウロ教会とが成り、引き続き聖愛教会が落成し、聖ヨハネ教会が竣工し、諸聖徒教会は大塚聖公会と合併し新しい場所に礼拝堂を造り、借家であった大森聖公会は新しい場所に会堂と牧師館を得、千住聖公会は改築して宣教奉仕の一大拠点となり、神愛教会は堂々たる鉄筋コンクリートの会堂となつてその光彩を現すにいたつたのである。

次に多くの教役者が教区内に移籍して、直接間接に教区の事業を援助してくださることは教区の厚く歓迎し、かつ感謝する所である。本年になつて伊藤藤松太郎長老は北海道地方部より移籍してガーデンホームの主任となり同院内の宗教事業を主管し、根岸卯太郎氏

ることとなるが、失敗すれば、これ実にアジア伝道のスタンプリング・ブロック(妨げ・障害)である。神が我等の肩の上にこの大きな責任を負わせ給うことを思うとき、一面においては恐れ漂いて神のみ助けを希うのみだが、また一面においては踊り勇んで神の前にこの責任を尽くそうとの心情も湧き出るのである。

従来、外国各ミッシヨンに属し歴史的にその特種な訓練と教育を受けた教役者および信徒がここに融合一致して共同的に教区の発展を図り、チャーチマンシップを異にし、礼拝形式において意見を異にするものが聖公会という大主教のもとに、和やかに提携し、神の栄光を顕し公会の徳を建てることに努めつつある、その麗しき状態は実に感謝すべき現象であると言わねばならない。



日本において二教区が成立したことは英米母教会の喜びだけでなく、中国、インドにおいてもこれを誇りとする所であると同時に、彼等はまた最大の興味をもつて教区の生長を期待し、その發育を祈りつつあることを記憶しなければならぬ。世界の聖公会の一体として完全に発達するようにと我等はアジアの一隅に放たれたのである。わが教区が健全に成長すれば、キリスト教は欧米の宗教ではなく、広く人類教であることを明瞭に証明する事実である。

ことを！  
神は負えない責任を負わせること  
はないと知る。

報告として、今一つの事実を附加して諸君の了解を得たいことは、東京教区が過去一年間の監督の働きを通じて、英米の母教会を始め、世界の兄弟教会と一層親善な関係を増進する事実である。

は中部地方より移籍して熱心に亀戸方面の伝道に従事している。

第二次臨時教区会の当時、執事であった高瀬恒徳氏は進んで長老に按手され聖テモテ教会の牧師となり、同執事野瀬秀敏氏は長老となつて三光教会牧師に任ぜられ、伝道師弓田義隆、山口信太郎の両氏は執事に按手されて一層責任の重きに就かれたのである。

今日東京教区に属する教役者は現職日本人長老十九名、英国長老三名、現職執事六名、伝道師五名、日本婦人教役者九名、英国女教師十二名、米国女教師二名に監督を加えて合計五十七名である。

教区内の信徒数は、昨年の調査では五千百七十七名であるが、行方不明の者と三年以上教会と交流のない者を除き、現在信徒総数は三千六百七十六名である。しかしこの中で法規において現在受聖餐者数と称する者が一千六百四十四名となつている。これは震災三ヶ月後の統計である。

面積よりいえば二教区七地方の中では東京が最も狭く、教会の建物においても最も貧弱であり、教役者の数においては第五位であるが、信者の数においては第一位である。教区

東京教区監督であるがために、英国のCMSの名譽評議員の一人となり、ブリテイッシュ・聖書社社名譽副会長の一人となり、またユダヤ人伝道会の役員に推薦され、いわゆる名譽職にして何ら責任が生じることがないとしても、日本における自給教区の邦人監督の位置が英国教会に知られて、他の監督と共に同一の名譽を与えられたことは、わが教区が世界的に認められたことの証明であり、これによつて一層の親善を実現したのである。

米国教会では、私が米国において神学の教育を受け、聖職に按手された関係により、益々密接な接触となり、中国においては、在留邦人聖公会員の管理監督に任ぜられ、そのために多くの中華聖公会の人々と兄弟の交わりを結ぶ機会を与えられ、インドにおいては、唯一のインド人監督が古くからの知人であるため、文書の交換によつて益々親善を厚くしている。

このように神は東京教区を世界に押し出し、その使命を全うさせようというみ旨を、私は益々自覚するに至つたのである。(出典：東京教区時報第十号・大正十三年十二月十日発行号)



司祭と語ろう (特別編)

主教 五十嵐正司

前回に引き続き、五十嵐主教との対談の後編をお届けする。聞き手は聖職養成委員長の吉松英美氏と広報委員長の渡辺康弘の2名、場所は立教大学のチャペル会館で、昨年10月に行った。

吉松 たしかオーストラリアへ行かれましたね。  
五十嵐 ロンドンに本部があるミッション・トゥ・シーメンの働きで4年間オーストラリアのシドニーに行っていました。



吉松 どのような働きをなさっていたんですか。  
五十嵐 一言で言うと、船に乗っている人たちに対する牧会ですね。船が港に到着すると訪

問するんです。

4人のチャプレンとのチームミニストリーでした。その日に入ってきた船を手分けして訪ねます。訪問は自分の好みによって行うのではなく、前もって用意された訪船リストに従って訪ねます。共産圏の船を訪ねた際には追い返されたこともありましたが、でも、その4年間は教会訪問の良いトレーニングになりました。

吉松 私は人材の育成ということに関心があるのですが、海外に行くなどして外からも見るのが大事だと思っています。

五十嵐 そう、留学ではなくても、海外へ行くと物の捉え方は幅広くなります。教会、クリスチャンといっても同じではない、場所によって違う考え方を生かしている。それに触れるだけでも貴重な体験になるので、教会のためにも、その人自身のためにも外国へ行くことをお勧めします。キリストの働きは世界大、グローバルですから、それを体感して欲しいです。  
吉松 教会にも、3ヶ月くらいは海外へ喜んで送り出す雰囲気



があれば、聖職者も勇気付けられると思います。

渡辺 ただ聖職不足でそういう余裕がないのが現状ですが。五十嵐 聖職不足は日本だけでなく、先進国も同じですね。聖公会だけでなくカトリックや他教派もです。でも、もったいないですね。この働きは本当にやりがいがありますのに。

渡辺 どんな時にそれを一番感じられますか。  
五十嵐 苦しい状況にある人から相談を受けることがあります。その人は私を信頼して、他の人には話せないことを打ち明けてくれます。内容は重たいし必ずしも解決はできないのですが、そんな時、その人の深い所

「司祭のこの一冊」

「君たちはどう生きるか」

吉野源三郎著  
岩波文庫、1982年(原著初版は新潮社1937年刊、近刊としてはポプラ社2011年)

司祭 宮崎光



物語に織り込まれる、「コペル君」に宛てられた「お

きたい」「一冊」。  
物語は、中学生「コペル君」が、銀座のデパートの屋上から、どこまでも続く街並の下に、何百万もの人間が、思い思いのことをして生きていて、人は皆「分りたくないもの」と気づくところから始まる。そして、学校の出来事や感じたことについて、彼は「叔父さん」と対話しながら思索し、成長する。  
ある雪の日、雪合戦に夢中に  
なり、親友が上級生の「雪人形」を壊してしまふ。親友が上級生に殴り倒されるのを、「コペル君」は怖くて物陰から見ているだけだった。その心の動きが細やかに描写される。自己保身、強者に歯向かう虚しさ、そして自己正当化が入り混じり、苦しむ。しかし手紙で、自分の弱さをさらけ出して詫言ると、そこから親友との関係が再起する。そして、互いを思いやりながら生きる責任に目覚めてゆく。  
物語に織り込まれる、「コペル君」に宛てられた「お

に招かれ、深い所で出会えたと  
いう体験をします。  
渡辺 それが牧師の喜びにつながるわけですね。  
五十嵐 その人と深い所で出会えたという喜びです。

吉松 河野司祭から聞いた話ですが、韓国に派遣されていた時、ある人から病院に行ってくださいと言われて、行くのはいいけど俺は韓国語は全然話せないよと言ったら、それでいいんです、ただ傍らにいてくれるだけでいいんですと言われ、行くことも感謝された。俺にもそんな価値があるのかと感激したそうです。



五十嵐 何か格好いいことを言う訳ではなく、傍らに  
いるだけでいいんです。手を  
もってお祈りするだけで涙され  
る人もいます。そんな時、この  
働きの大きさ感じます。

吉松 そういうことが年に一度  
でもあれば、それまでの苦勞が  
吹っ飛ばすそうですね。  
五十嵐 その通りです。  
渡辺 その後、九州教区主教に  
選ばれましたが、正直、どんな

お気持ちでしたか。

五十嵐 心身共に揺らぎましたね。自分にそんな大きな働きが出来るのかと、神様に対する畏れで心身共に揺らぎました。  
渡辺 主教の働きのひとつは牧師を育てることですが、牧師にとって大切なことは何でしょう。

五十嵐 九州では、私が聖職と

して願っているのはこういう人  
ですとして、ふたつのことを言  
いました。ひとつはよく聞くこ  
との出来る人、体全体で聞くこ  
との出来る人。ふたつ目は人が  
好きでイエス様の好きな人。そ  
れだけです。

渡辺 僕は聖職不足の一つの原  
因は、人間関係をうまく作れな  
い人が増えているからだと思っ  
たんです。特に若い人ですね。牧

師というのは究極的に人と関わ  
るわけですが、その働きに魅力  
を感じないのかもしれない。

先生は誰か影響を受けた牧  
師さんとかはいらっしゃいま  
すか。  
五十嵐 日本では竹内謙太郎司  
祭です。あと名前は忘れまし  
が、シドニーでチャプレンとし  
て働いていた頃に出会ったカト  
リックのチャプレンです。彼と  
ただです。2度目に互いに挨拶  
を交わした時の、彼の様子は、  
体全体でわたしの受け入れ  
てくれているような温かさが伝  
わりました。ひと言、声をかけ  
るだけで温かさや平安を伝えら  
れる。その様な牧師になりたい  
と思えました。

渡辺 その人の存在だけで人を  
温かくする牧師ですね。

吉松 そんな人の周りには自然  
と人が集まってくる。聖職とい  
うのは他の仕事では味わえな  
い喜びがあると思います。

渡辺 最後は聖職養成委員長と  
しての宣伝みたいになりました  
ね(笑)。

お忙しいところ、今日はどう  
も有り難うございました。

「ラビ、この人が生まれつき目  
が見えないのは、だれが罪を  
犯したからですか。」(ヨハネ  
9・2)

人が病気になるったり障がいを持ったりするのはその人の罪のためだ、ばちがあつたのだ。ユダヤ教ばかりでなく、そのような直感も珍らしいことではない。この人が生まれつき目が見えないのは、本人が悪いのだろうか、それとも両親が悪いからだろうか。イエスの弟子たちもそのように考えたようだ。

《聖書を開いて》 ①

神の業が現れるため

知加子 下条 聖職候補生

現れるためである。」(ヨハネ9・3) 自らの過去に「何故に」と縛られる。神の在り方・救い主の生き方に信を置いて、目前の現実に向き合い、今どのようにしたいか考えてみなさい、と。

たとい手に負えず見通すことができない現実、実に直面したとしても、それに立ち向かって懸命に生きようとすると、きつと新しい視野が開け、わたしたちにふさわしい生き方やあり方が見えるようになるだろう。イエスも共に立ち、立ち上がり歩み出そうとする者の目を開いてくださるに違いないのだから。



私たちの教会 [10]

# ようこそ千住基督教会へ



日光街道沿いの宿場町として栄えた千住は、今でも毎日史跡巡りの人達が団体で町を歩いている光景に出会えます。古い文化と新しい文化が不思議に入り交じった魅力ある町、それが千住です。また、最近では学園都市として変貌をとげつつあります。東京情報大学、東京芸術大学、東京電機大学、帝京科学大学の各キャンパスが次々と開校され、学生の町として地域に活気を与えています。

私達の教会がある南千住は静かな住宅街にありますが、駅の周辺は再開発が進み、マンションを主とした高層ビル街となつていきます。今から百年前に山口信太郎師によってこの地に蒔かれた宣教の種は、多くの課題を乗り越えながら今日まで続き、成長してきています。これも多くの信仰の先輩達が、千住教会の灯火をなんとか守りたいという一念で、努力されてきた結果であると感



近隣の人達を主体にしてお招きしたいと考えています。また、記念礼拝は教区主教をお招きして10月に行います。それまでに小記念誌が発行出来たらいいなと思案中です。当教会の信徒数は20数人という小さな交わりですが、このところ少しずつ新しい方

国は福音を宣べ伝えること、②新たな信徒と共に、学び、成長すること、③愛の奉仕によって人々の必要に応えること、④社会の不正義な構造の変革に参与し、あらゆる暴力に立ち向かい、平和と和解を追求すること、⑤被造物を守り、地上のいのちを保持し、新たにするために努力すること、です。こうした点からも、原子力発電と放射能の問題について、キリスト者としてしっかりと受けとめ、神の声を耳を傾けることはとても大切なことです。

が御見えになるようになりました。嬉しい限りです。これも下町教会グループの皆さんをはじめ多くの方々のご支援のお蔭であると感謝しております。正に消えかかった灯火が、次の百年に向けて再点火された思いです。

今後の目標としては次の課題をあげておきたいと思えます。

① 近隣の人達、特に高齢者に何が提供できるか。② 新しい町の住人、特に子供たちへの係わりをどうするか。③ 急増する大学生にどう対応するか。④ 老朽化した礼拝堂への対策そして財政問題。

少人数で高齢化した信徒に何が出来るのか、あまり自信はありませんが、司祭さんたちや新しく来られた若い信徒の皆さんのお力をお借りして、多くの方々に祈りの場を提供できるよう努力を続けたいと考えています。皆さんどうぞ千住の教会を尋ねて下さい。そしてその足で歴史の町を散歩されたら如何でしょうか。お待ちしております。

(横内 允)

は、精錬され、「イエローケーキ」というフレーク状にされ、濃縮され、原発の燃料とされますが、この過程においても、大量の廃棄物が産出され、これによる汚染も著しいものがあります。

こうした採掘現場では、著しい放射能汚染が広がり、環境汚染は取り返しがつかないものとなっております。その結果、その地域一帯に住む先住民を始め、地域住民の間で、死者が出、肺がん、心臓病、呼吸器疾患、先天性の異常、不妊症、奇形が多発しています。

以上の諸事実は、採掘・精錬の過程で、被ばくが構造的に起こっていることを示します。その意味で、採掘現場において弱い立場に置かれている人々の犠牲を強いることなしに、原発は存続し得ないと言えます。

我々キリスト者は、「最も小さい者」にしたのは、キリストご自身にしたもの(マタイ25:40)と理解します。キリスト者として、弱い立場におかれた人々に被ばくを強いて原発が成り立っている現状を見過ごしにすることが出来るでしょうか。

## 《信徒リレーエッセイ》

教会と私

清瀬聖母教会 菅浪 敦

東京都清瀬市、最早、埼玉と言っても過言ではないその敷地は、武蔵野の趣ある雑木林に彩られ、自然の恵みを受容する反面、様々な厄災も甘受している。春には筍、初夏には枇杷がたわわに実り、秋には栗が子供たちを喜ばせる。反面、夏には蚊の集団に悩まされ、何の前触れもなく木が倒れ、車を直撃したりする。筍が芽吹くのも、くぬぎに群がるカブトムシの数も、まさに人智の及ばぬ所で、見えざる力を感じざるを得ない。礼拝堂に入るや、正面には視野を覆わんばかりの圧倒的な大きさのイエスの十字架像、左右には十字架の道行の壁画が配され、前面と後面にはイエスを抱いたマリア像、文字通り至る所に神がいる。冗談ではなく、一人礼拝堂に佇むと、神を感じたり、死んだ父を見る事がある。我々父祖達の祈り続けてきた教会、その祈りが荘厳かつ厳粛な佇まいとなり、おのずから我々の頭を垂れさせるのだろう。

## 〈原発と放射能に関する特別問題プロジェクト〉 シリーズ 原発 Q&A その①

監修 河田昌東

【Q1】なぜ教会は原発問題を取り上げるのか

【A1】原子力発電は、基本的には科学技術の問題であり、経済の問題であると言われている。それに對して教会が専門的・決定的な発言をすることはできません。しかし、それが「いのち」(人間のみならず全被造物の)に関わる場合、キリスト者は、神が造り、日々支えてくださっている「いのち」を大切にするという立場から、「いのち」を脅かすものと闘わなければなりません。洗礼を受けるときの「神に逆らうサタンを退け、神によって造られたこの世を墮落させ破壊するすべての悪の力と戦います」という誓約は、内面的な魂の事柄だけでなく、この世界全体に関わる誓約ではないでしょうか。この世はみな神の世界なのです。

管区総会で採択された声明は、①神によって造られたいのちを脅かす、②神によって創造

された自然を破壊する、③神によって与えられたくらしを奪うという点から、原子力発電に重大な問題性があると指摘し、原発のない世界を求めて、わたしたち自身のライフスタイルをも含めて、エネルギー政策を転換することを求めています。

聖公会の信徒のみさんの中には、原子力産業に関わっている方もおられます。その中で苦悩し、場合によっては被ばくすらしながら、被害を極力抑えるために努力しておられることには敬意を払います。また、原発を廃止したとしても、その後の処理には長い年月と原子力関連技術者・労働者の力が必要です。その上でなお、現在と将来の世代的いのち、被造物全体のいのちのために、原発を撤廃し、新たな道を切り拓くことを教会は主張すべきではないでしょうか。

世界の聖公会は一致して、教会の働きについて5つの指標を定めています。それは、①神の

【Q2】原発の燃料はどこから来るのか。そこで何が起きているのか

【A2】原発を動かす燃料の主原料はウラン鉱であり、その主要な産出国は、カナダ、オーストラリア、カザフスタン等です。日本で使用するウランは、オーストラリア、カナダ、ナミビア、ニジェールから輸入されています。それらの国々における被ばくは深刻です。

ウラン鉱の放射能半減期は、地球の年齢とほぼ同じで45億年

です。このウラン鉱が採掘される地域は、多くの場合、先住民が大自然の恵みを得て、自然と共に住んできた地域です。このウラン鉱を地中から採掘するために、まず先住民がその地域から追放され、その上でその採掘労働者として使われることが多いのです。彼らには防護服はおろかマスクや手袋すら支給されないもので、多大な被ばくを強いられます。

被ばくは採掘に関わる人々とどまるものではありません。大量に掘り出された鉱滓や残土は、見渡す限りの広さで野ざらしにされ、またその汚染水は膨大な量が溜まり続け、あるいは地下水に溶け込んでいきます。その結果、地域住民は、γ線を被ばくし、汚染された水や食物を通してウランを体内に取り込むことにより、また空气中に飛散したラドンを吸入することによって内部被ばくが起きます。この3種の被ばくは、採掘現場のどこにあっても必然的に起こるものであり、回避することが出来ません。

また採掘されたウラニウム鉱

は、精錬され、「イエローケーキ」というフレーク状にされ、濃縮され、原発の燃料とされますが、この過程においても、大量の廃棄物が産出され、これによる汚染も著しいものがあります。

こうした採掘現場では、著しい放射能汚染が広がり、環境汚染は取り返しがつかないものとなっております。その結果、その地域一帯に住む先住民を始め、地域住民の間で、死者が出、肺がん、心臓病、呼吸器疾患、先天性の異常、不妊症、奇形が多発しています。

また採掘されたウラニウム鉱

は、精錬され、「イエローケーキ」というフレーク状にされ、濃縮され、原発の燃料とされますが、この過程においても、大量の廃棄物が産出され、これによる汚染も著しいものがあります。

キリスト教講座・祈り②  
**祈りの実践**  
 司祭 成 成 鍾

1. イエス祈禱  
 「イエスの名前を呼ぶ祈禱」とも言われるが、ルカによる福音書18章13節の「神様、罪びとのわたしを憐れんでください」という徴税人の祈りと、ルカによる福音書9章20節に記され、教会の最初の告白と言われている「イエス様、あなたはキリストです」が一つになって作られた祈りである。

やり方は、先ず神様の前に自分のことを意識し、呼吸に合わせて急がずに次のような文章を繰り返して唱える。息を吐きながら「(神の子)主イエス・キリストよ」、吸いながら「(私を)憐れみをお与えください。」または、短くして「イエスよ、憐れみを」「キリストよ、憐れみを」、また「イエス、キリストよ」「主、イエスよ」を唱えることもできる。この祈りの核心は、単純に言葉を繰り返すことにあるのではない。告白と悔い改めを通して慈悲を求める切実な心、そして自分の全て

を主に委ねることにポイントがある。聖公会ロザリオを用いて行うと効果的である。  
 2. 矢の祈り  
 まるで矢を射るように、瞬間的に簡単に短い祈りを神様に捧げることが「矢の祈り」と言う。聖アウグスティヌスが「神様に速達で送るメッセージ」という意味を込めて名付けたと言われている。いつでも捧げられる短い祈りであるため、世の中で生きている多忙な現代人に適った祈りである。矢の祈りは、日常生活の忙しさの中で、瞬間的に神様の現存を求めて祈り、また戻った生活の中で御心が自然的に与えられるよう待つ祈りである。



霊的日記の記録に關しては決まった方法はない。形式や長さも自由に行うことができるが、可能な限り率直で単純明瞭にまとめるのが望ましい。毎日書くことと義務としての意識が強くなってしまうむしろ負担になるので、週に2、3回ほど、継続的に書くことが勧められる。こうして祈りや黙想を通しての自分の霊的な成長の過程を自ら確認するという大切な体験ができる。

3. 霊的な日記  
 霊的日記とは、単純な記録や普通の日記とは違って、自分の生活を振り返り、その中に差し伸べられたみ手の働きを探し出し、改めて感じることである。また日常の出来事の中で、忘れるべきことと記憶しておくことを見極め、日常生活を祈りの中で整えることができる。霊的日記を書く瞬間は、み身に耳を傾ける祈りの瞬間である。

4. 霊的指導  
 日常生活の中で祈りと黙想を實踐していくと、分からなくなったり躓くことがある。それは霊的形成の過程においてごく自然な出来事として、むしろ祈りや黙想が順調に進んでいる証でもある。但しそういう時こそ、霊的な状況を見極めるための識別の過程が求められる。教会は、そういう過程のことを伝統的「霊的指導・霊的案内」と表現し、その営みに携わる人のことを霊的指導者、また霊的同伴者、魂の友と呼んできた。霊的指導者は、神様と同伴者の間で触媒的な働きをする存在として、真の霊的指導者である聖霊に寄り掛かりながら、同伴者自身も正しい識別をし、み心に適う行動をし、常に主と共に歩むことができるように手助けする。エベレスト登頂の時にシエルバというガイドが欠かせないように、祈りと黙想生活の中に霊的指導者は重要な存在である。神様に向かう霊的な旅路に同行できるしかるべき人を探してみよう。

(渋谷聖ミカエル教会牧師)  
 ◇ ◇ ◇  
 次回イースター号  
 4月20日発行予定

矢の祈りは、何かがあった時にすぐさま自然的に出てくる祈りであるため、特別なやり方はない。ただ単に、祈り求めている内容をいくつかの単語で簡潔にまとめ、瞬間的に捧げる。例えば「神様、助けてください」「(誰かを)お守りください。」と祈る。

まとめるのが望ましい。毎日書くことと義務としての意識が強くなってしまうむしろ負担になるので、週に2、3回ほど、継続的に書くことが勧められる。こうして祈りや黙想を通しての自分の霊的な成長の過程を自ら確認するという大切な体験ができる。

ちょっと聖書、ときどきユーモア (十一)

1. 祈りは聞かれる

牧師「君の受験のためにお祈りしたよ」  
 学生「でも、受かりませんでしたよ」  
 牧師「そうか、私の祈りが通じたな」  
 学生「いったい、どんなお祈りをしたんですか」  
 牧師「君の受けた大学が一番よい選択をするようにお祈りしたんだ」

2. 誘惑の歌

牧師「・・・そういうわけでイエス様は悪魔の3つの誘惑を退けました」  
 信徒「いいよなあ、イエス様は」  
 牧師「君、イエス様のどこがいいというんだね」  
 信徒「だって、イエス様は3つでしょ、私なんか毎日“朝起きたくない”“仕事に行きたくない・・・”など、30以上の誘惑がありますから」

3. ユダ

牧師「ヨハネ福音書によると、イエス様を裏切った12使徒(しと)の一人ユダは会計をごまかしていました」  
 信徒「そうか、それで分かりました」  
 牧師「いったい何が分かったのですか」  
 信徒「それで・・・使途(しと)不明金というんですね」